昭和55年末の貯蓄・負債の保有状況は……

1．1世帯当たり平均貯蓄現在高は579万円

昭和55年12月末現在における，勤労者世帯と一般世帯(個人営業世帯など)を合わせた全世帯の1世帯当たり平均貯蓄現在高は579万円となり，前年に比べ58万円，率にして11.2%増加したが，大きな増加を示した前年に比べると低い伸びとなっている。

また，勤労者世帯の1世帯当たり平均貯蓄現在高は473万円となり，前年に比べ71万円，率にして17.7%増加した。53年，54年の対前年増加率がそれぞれ6.8%，8.1%と低い伸びで推移していたので，3年ぶりに2けた台の伸びとなった。

一方，勤労者世帯の負債現在高は151万円となり，前年に比べ2万円，率にして1.5%とほとんど伸びていない。これは，住宅・土地のための負債現在高が138万円と，前年に比べわずかに1.0%増加したにすぎないためである。(表—1)

以下，勤労者世帯についてやや詳しく見てみよう。

2．勤労者世帯の半分が貯蓄現在高328万円以下

貯蓄現在高階級別の世帯数割合をみると，貯蓄現在高100～150万円の世帯が9.5%と最も多く，次いで150～200万円の世帯8.5%，250～300万円の世帯7.6%，以下貯蓄現在高割合が高くなるほど世帯割合は低下し，勤労者世帯の64.9%(約3分の2)は平均貯蓄現在高473万円以下で，貯蓄の低い世帯が多いという偏った分布となっている。したがって，貯蓄現在高の中央値(世帯数の割合が2分される値)は328万円，最頻値(最も世帯の集中している階級の貯蓄現在高—推定値—)は130万円となっている。(図—1)

3．定期性預金は25%の大幅増，通貨性預金は減少

貯蓄現在高を貯蓄の種類別にみると，定期性預金が最も多く233万円，次いで生命保険が93万円，有価証券が79万円，通貨性預金が43万円，金融機関外が26万円となっており，前年に比べ定期性預金が24.9%と大きく伸びたほか，有価証券が20.9%，生命保険が11.3%の伸びをみせた反面，ここ数年低い伸びを続けていた通貨性預金は(－)0.7%の減少となった。長期的にみて，通貨性預金が減少傾向，定期性預金が増加傾向というこれまでのパターンは今回も変わっていない。(図—2)

4．通貨性預金・生命保険の割合が高い低所得層 有価証券の割合が高い高所得層

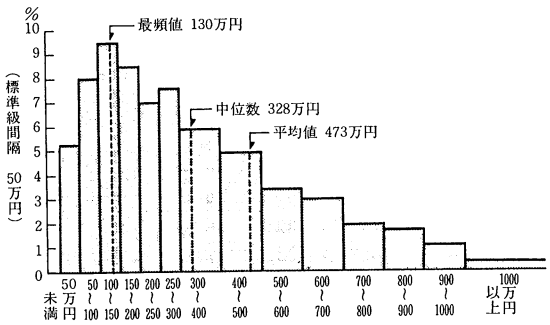
年間収入五分位階級別に貯蓄の種類別割合をみると，定期性預金はいずれの所得階級でも50%前後の高い割

表—1　貯蓄・負債現在高の推移

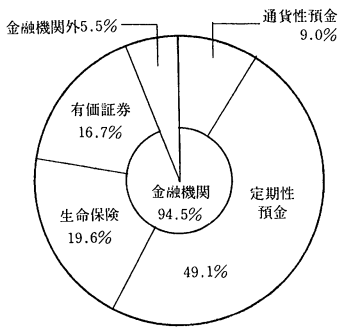
年次	全世帯				勤労者世帯					
	貯蓄		負債		貯蓄		負債			
	現在高	対前年増加率	現在高	対前年増加率	現在高	対前年増加率	現在高	※	対前年増加率 現在高	対前年増加率 ※
	千円	%	千円	%	千円	%	千円	千円	%	%
昭和45年	1,603	14.9	284	26.3	1,262	15.3	191	146	25.3	—
46	1,829	14.1	339	19.5	1,419	12.4	240	193	25.7	32.2
47	2,150	17.5	462	36.2	1,730	21.9	364	299	51.8	54.8
48	2,426	12.8	623	35.0	1,935	11.8	485	398	33.3	33.2
49	2,704	11.5	756	21.2	2,252	16.4	614	523	26.8	31.4
50	3,168	17.2	850	12.5	2,636	17.1	719	600	17.0	14.7
51	3,768	18.9	874	2.8	3,151	19.5	789	668	9.7	11.3
52	4,271	13.3	1,078	23.3	3,486	10.6	966	872	22.4	30.5
53	4,511	5.6	1,404	30.2	3,722	6.8	1,261	1,147	30.5	31.5
54	5,212	15.5	1,708	21.7	4,023	8.1	1,489	1,363	18.1	18.8
55	5,794	11.2	1,772	3.7	4,734	17.7	1,512	1,376	1.5	1.0

各年12月31日現在。　※うち住宅・土地のための負債現在高

図—1　貯蓄現在高階級別世帯分布—勤労者世帯



図—2　貯蓄の種類別構成比



……総理府統計局「昭和55年貯蓄動向調査報告(速報)」から

合を占めているが，通貨性預金・生命保険は低所得層ほど高い割合を占め，有価証券は高所得層ほど高い割合を占めている。(表―2)

表―2　年間収入五分位階級別貯蓄・負債の種類別現在高―勤労者世帯
(昭和55年)

(単位:千円，倍)

	年間収入	貯蓄現在高	金融機関	通貨性預金	定期性預金	生命保険	有価証券	金融機関外	負債現在高	うち住宅・土地のための負債
平均	4,493	4,734	4,472	427	2,326	929	791	262	1,512	1,376
第Ⅰ階級	2,376	2,134	2,073	294	1,055	567	157	61	416	310
Ⅱ	3,349	3,249	3,101	319	1,732	760	290	149	1,174	1,033
Ⅲ	4,151	4,195	3,936	391	2,031	966	547	259	1,414	1,297
Ⅳ	5,121	5,366	4,967	448	2,711	971	837	399	2,131	2,020
Ⅴ	7,468	8,726	8,283	681	4,100	1,379	2,123	443	2,427	2,220
Ⅴ／Ⅰ	3.14	4.09	4.00	2.32	3.89	2.43	13.52	7.26	5.83	7.16

5．貯蓄現在高は世帯主の年齢が高いほど多い

世帯主の年齢階級(10歳階級)別に貯蓄現在高をみると，年齢階級が高くなるほど多くの貯蓄を保有している。これを年間収入に対する貯蓄現在高の割合(貯蓄年収比)でみると，若年齢層では年間収入に満たない貯蓄を，高年齢層では年間収入以上の貯蓄を保有しており，特に60歳以上の世帯では年間収入の2倍の貯蓄を保有している。

一方，負債現在高についてみると，40歳代が最も多く，次いで30歳代となっている。これを年間収入に対する負債現在高の割合(負債年収比)でみると，30歳代が最も多く，次いで40歳代となっており，中年齢層において負債現在高・負債年収比ともに高くなっている。(表―3)

6．負債保有世帯の負債現在高は290万円

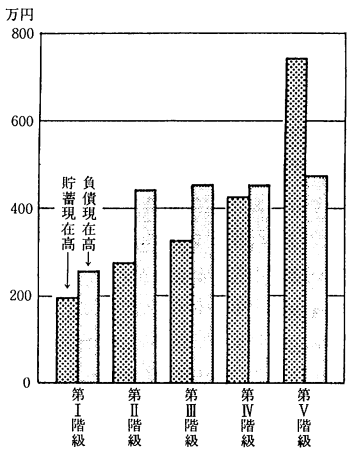
勤労者世帯のうち，負債を持っている世帯の全体に占める割合(負債保有率)は52.3%となり，年々増加傾向にある。その負債現在高は290万円で，前年に比べ(－)0.5%の減少となった。

表―3　世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高―勤労者世帯

(単位:千円，%)

年齢階級	年間収入	貯蓄		負債			(A)―(B)
		現在高(A)	年収比	現在高(B)	うち住宅・土地のための負債	年収比	
平均	4,493	4,734	105.4	1,512	1,376	33.7	3,222
30歳未満	3,108	2,045	65.8	741	557	23.9	1,304
30歳代	3,892	3,432	88.1	1,564	1,448	40.2	1,868
40歳代	4,841	4,865	100.5	1,864	1,715	38.5	3,001
50歳代	5,779	7,223	125.0	1,397	1,241	24.2	5,826
60歳以上	4,272	8,678	203.1	543	487	12.7	8,135

7．住宅・土地の借入金のある世帯の負債現在高は444万円

住宅・土地の借入金のある世帯は勤労者世帯全体の31.9%を占め，1世帯当たりの負債現在高は444万円で，このうち住宅・土地のための負債現在高は432万円と負債現在高の97.2%を占めている。これを年間収入五分位階級別にみると，第Ⅰ階級の259万円を除いて，第Ⅱ階級から第Ⅴ階級までいずれも400万円台の負債を保有し，負債年収比は第Ⅳ階級，第Ⅴ階級を除いて100%を超え，低・中所得階層では年間収入以上の負債をかかえている。負債返済額は62万円となり，前年に比べ2.5%増加した。(図―3)

図―3　年間収入五分位階級別住宅・土地の借入金のある世帯の貯蓄・負債現在高―勤労者世帯